

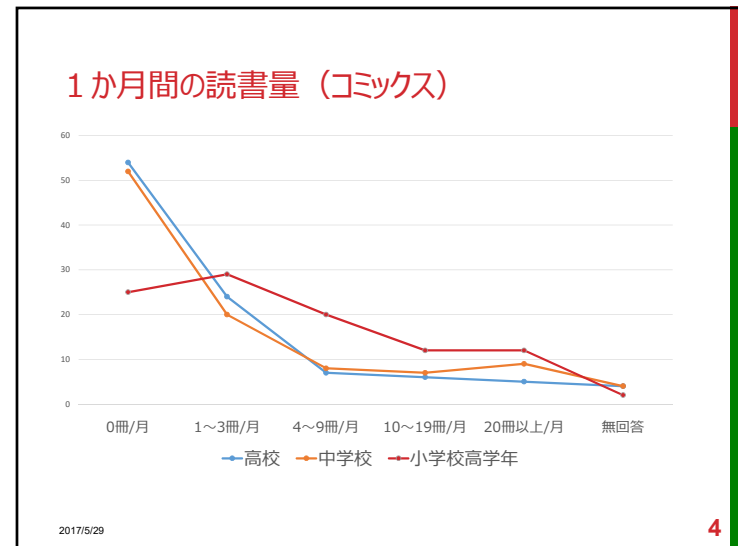
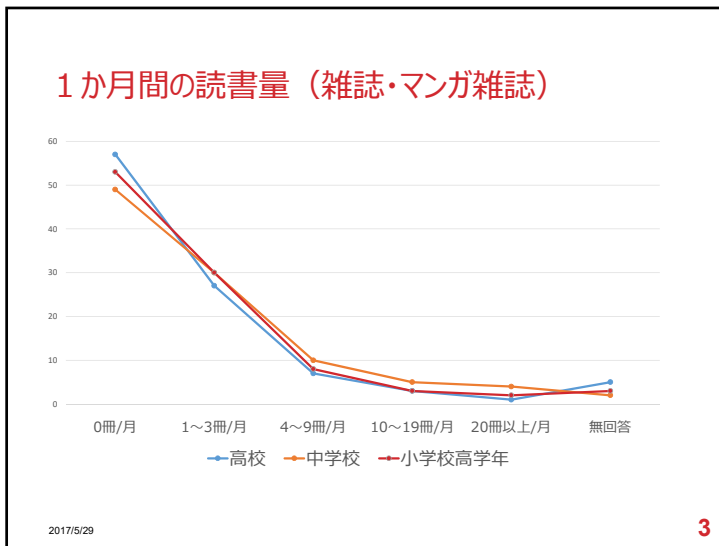
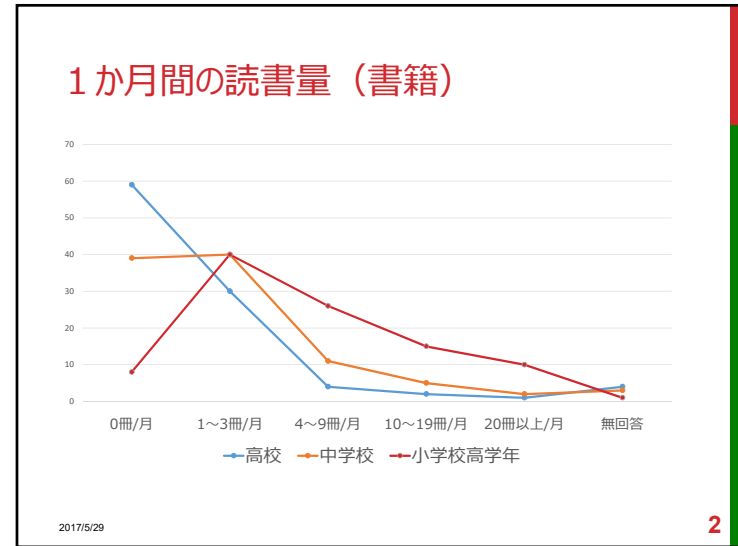
電子出版・制作流通協議会

学校図書館における電子書籍の利用モデル調査

児童生徒アンケートの結果と分析

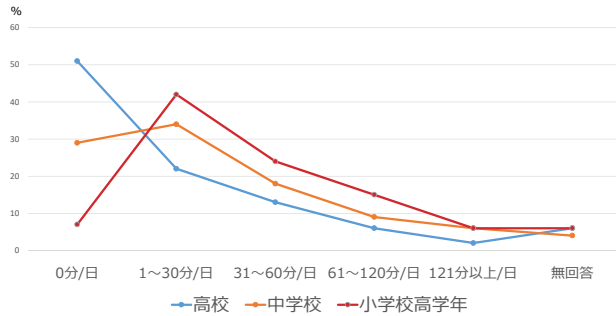
2017年5月29日

植村八潮
専修大学



1日当たりの読書時間

1日に本を読まない児童生徒は、校種が進むほど増え、高校生では半数を超える。

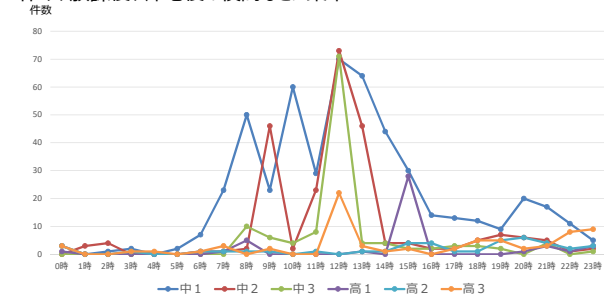


2017/5/29

5

利用時間

朝夕の登下校時間（電車内やスクールバスの車中などの移動時間）、昼休み、放課後、帰宅後の夜間などに集中

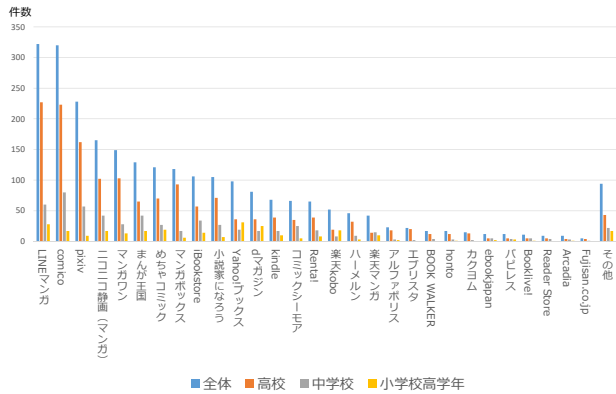


例：工学院附属中学・高等学校時間別ログイン回数

2017/5/29

6

利用経験のある電子書店・電子書籍サービス



2017/5/29

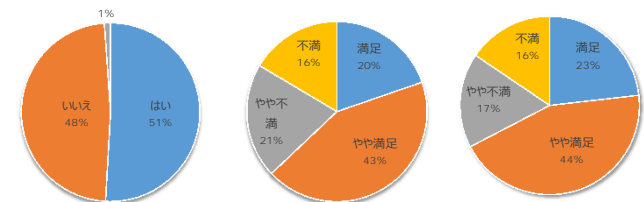
7

電子書籍の利用経験・評価

児童生徒の利用経験者は、全体を通じて約半数

児童生徒、教職員とも半数以上が好印象（読みやすい、使いやすい）

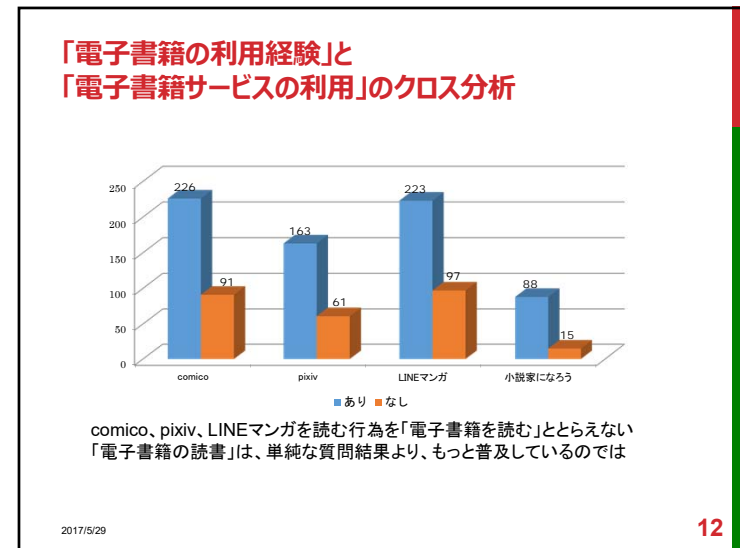
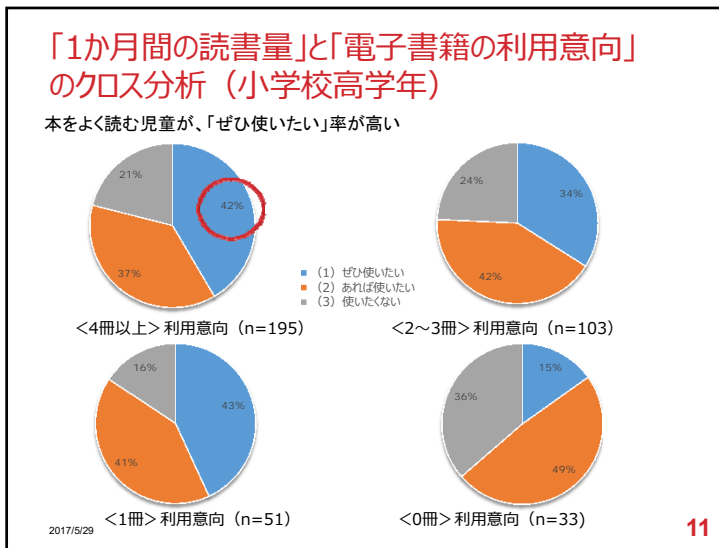
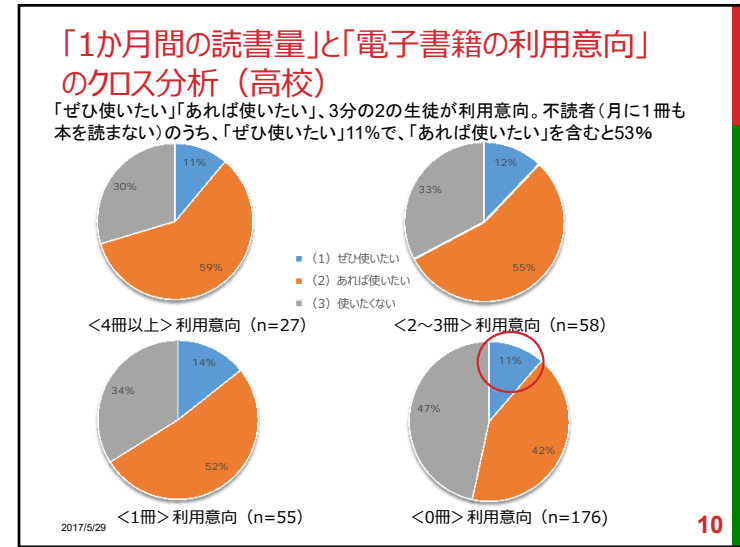
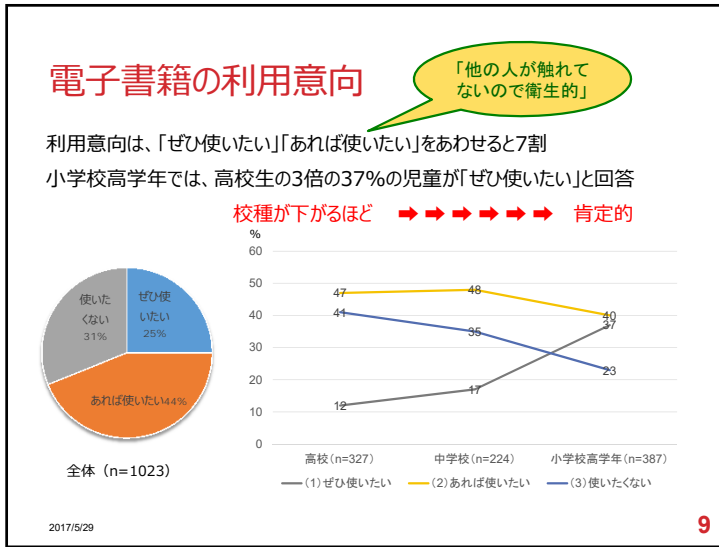
- ・児童生徒は教職員よりも高い傾向
- ・小学校高学年生が中学生・高校生よりも高い評価

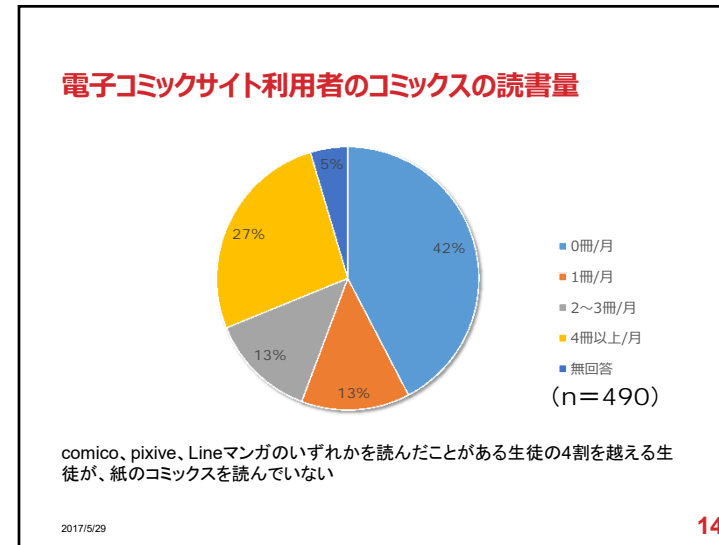
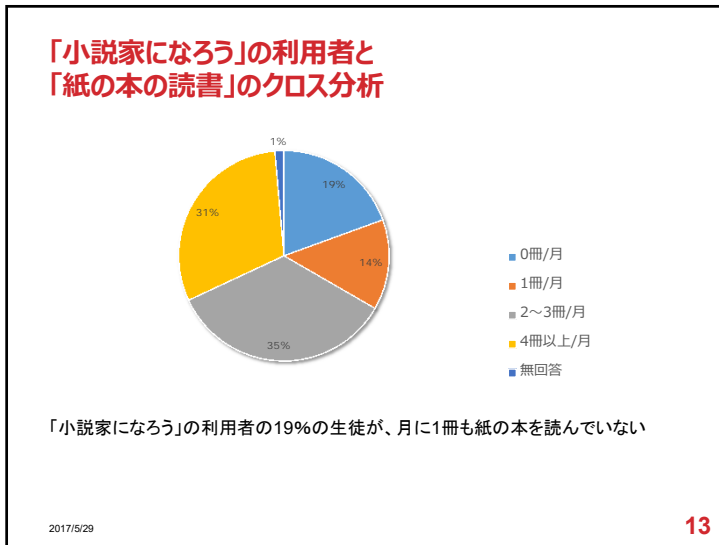


利用経験：全体 (n=1868) 使いやすさ：全体 (n=553) 読みやすさ：全体 (n=639)

2017/5/29

8





考察と提案

従来型読書調査では、「小説家になろう」などのネット文芸作品（＝デジタル小説）を閲覧することを「読書」とらえてはいない。

今まで不読者として統計処理されてきた児童生徒の中には、ネット文芸作品を読んでいる児童生徒が少なくない

「紙の本を読むことが読書である」といった読書観は、大人によって子どもたちに構築されてきたメディア観。従来型の読書概念や書籍の範疇外で、新たな「読書」と「電子書籍」が普及し始めているともとらえることもできる。

「見開きマンガ」と「縦スクロールマンガ」は、世代交代によるリテラシーの問題でもある。学校図書館へ「雑誌」と「マンガ」の導入を検討。

ディスプレイに抵抗感のない小学校の段階で、電子書籍で作品本来のおもしろさ、読書の楽しみに早く出会うことが、良質な「デジタル読書」へとつながっていく可能性を持つと考える。

2017/5/29 15

第5次の「学校図書館図書整備等5か年計画」

【平成29年度～平成33年度 5か年計：約2,350億円】

新聞配備費：約150億円

小・中学校等：約100億円
 高等学校等：約50億円<高等学校等：4紙>

図書整備費：約1,100億円
 学校司書配置費：約1,100億円

全国学校図書館協議会、(公財)文字・活字文化推進機構、学校図書館整備推進会議、日本新聞協会

2017/5/29 16